巻頭言

日本学術会議と電子情報通信学会

副会長　青山友紀

日本学術会議という科学者のコミュニティがあることは当学会では余り知られていないのではないかと思う．実際筆者も会員になるまでそれがどういう組織でいかなる活動をしているか知らなかった．そこでまず簡単にその活動を紹介する．同会議の沿革は終戦直後の1949年に日本学術会議法によって内閣総理大臣の所轄のもとに設置され，現在は内閣府の機関となっている．その組織は総理大臣が任命する210名の会員と，それに加えて会長が任命する連携会員1,990名からなる総勢2,200名の組織である．2005年10月にスタートした20期会員は人文科学部会（73名），生命科学部会（64名），理学・工学部会（73名）のいずれかに所属し，具体的活動を行う．上記法律によれば政府は科学に関する政策に関して同会議に諮問することができ，同会議は科学の振興に関して政府に勧告することはできる，と規定されている．

科学者コミュニティである科学アカデミーの起源ははるかルネッサンスにさかのぼる．当時レオナルド・ダビンチなどの科学者が活躍していたが，彼らが大学や修道院などの所属する組織から離れて自由に実験的な科学研究を進められるように，科学振興に理解のある君主のもとで始まり，それが次第に発展して英国のRoyal Societyや米国の全米科学アカデミーが設立された．これら欧米の科学アカデミーはその権威の高さから時の政府や科学者コミュニティにおいて大きな影響力を発揮してきた．日本学術会議はそのような科学アカデミーをモデルとして設置されたものであるが，過去その活動においていろいろな問題を抱えてきたそうである．例えばある時期にはイデオロギー的言説が幅を利かせ，当時の政府の方策に対してことごとく反対する提言をしたり，また以前は学術会議会員が学協会の推薦で選出されたため，会員がその組織の代理人として利益誘導の活動に走ったりすることが目立ったため，学術会議そのものを廃止する動きが強まるなど存亡のときを迎えることとなった．そのとき吉川元会長，黒川前会長のもとで抜本的な組織運営の見直しが行われ，改組された学術会議が昨年10月にスタートした第20期である．210名の会員はあらゆる分野から選出されるので，我々の電気・電子・情報・通信の分野の会員は前会期には大変少なく6名ほどしかいなかったが，今会期では約3倍に増加した．これは現代社会に与える電子・情報・通信のインパクトの大きさを考えれば当然のことであろう．

さて，このように我々の分野の会員数が大幅に拡大したわけであるから，学術会議で意味のある活動をしなければならない．国の研究費助成の配分は総合科学技術会議の役割であり，学術会議は科学アカデミー団体として見識ある活動や提言をする必要がある．昨年当学会は他の多くの学会と共催し，学術会議の後援のもとで「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える」というシンポジウムを開催した．学会と学術会議が協力して取り組むべき課題の例である．学術会議の中で我が国のサイエンス領域では情報発信媒体の弱体化が問題視されており，科学者の目はNatureやScienceに向けられ，日本の論文誌への投稿はどんどん減っているということである．これを立て直すのは容易なことではないが，電子ジャーナルの発行からスタートする議論もなされている．当学会の英文論文誌はアジアが中心とはいえ投稿数は増加しており，紙の論文誌からネットワーク配信による電子ジャーナルへと転換しつつある．当学会がこのように一歩進んだ情報発信媒体を育ててきたことは学術会議ではほとんど知られておらず，我々の経験が参考になることもあるであろう．

当学会と学術会議が協力して社会や政府に提言するなど双方にとって価値のある活動を協力しながら実行できれば新しい学術会議と学会の関係のモデルとすることも期待できる．当学会として今までほとんど行われてこなかったこのような活動も視野に入れることが重要と考えられる．